

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第二十三回

### 「掛け布団」

整理整頓を苦手としながら日常を過している。様々な想いが右往左往するため、胸中に湧き上がることを手当たり次第に始めてしまうところに、それは起因するらしい。恥ずかしながら、身についた良い習慣といえるのは、六十六年間の手習いと、三十五年続いた日記を記すという二つのことぐらいだ。

片付けと整理整頓に至っては全く駄目な日々の連続に、泣き笑いのような生活を送る羽目になっている。

この文を書いている今日九月八日は、十年日記のスペースに「白露」と記されていて、厳しかった残暑もなりを潜め、木々の緑や草の葉などに白い露の滴りを見る頃になったのだと、改めてその二文字によって教えられた。

自然のなりゆきで、私のベッドの掛け布団が相当古びて来ていることを、先だってから家内は気にしている様子が見えた。しかし、私が気にするのは手習いの為の用具

用材と本ぐらいのもので、衣類、食物、その他の所持品など、ほとんどのものは何でもよく、「俺は亭主の鏡かな」などという独り言を聞いた家内は、少し横の方を向いてから、意味あり気な笑いを噛み殺しているのが分かる。

偶然白露の今日、家内は決然といい出した。

「今日はあなたの掛け布団を新しくしましょう」

私自身は襟元のうっすらとした汚れなど全く気にはならず、極悪の寝相の為に切腹した裏地を繕った跡など何のその、あとでいいよ、来年でいいよ、を繰り返して来たのだった。しかし、今日の家内の語気は強かった。

「今日はあなたの掛け布団を新しくします」と譲らず、二人で水戸まで出かけた。私の年代の人間は、人にもよるが、使えるものは最後まで使い切ることを当然のこととして教えられた。

に入った。

白露の夜、実に快適なベッドができたことを私は感謝しながら眠りに入ることができた。

心地良い布団の感触に思い出すのは、中学生になって一年程過ぎた頃のこと、気の合う男児達が少し広めだった私の家に集まり、「勉強会」と称しては屯した。私を含む十一人が寝る為には、五組から六組の布団が必要で、幸い母が嫁入りに持参した夜具の数は、充分それを満たしていた。

半年余り経ったころ

「このままでは高校に行けなくなるぞ」と忠告をしてくれた優秀な朋友がいた。間もなく勉強会は解散した。

私はS君の忠告と、彼に教わった苦手の連立方程式を獲得して、何とか進学ができた。S君は恩人のだ。

十一人の男児が寝泊まりに使用した絹布や木綿の布団、寝間着も全て生地は引き裂けて腹腸のように綿が喰み出していた。ひよつとすると、そのなつかしさが破れ目のあった布団を離せなかった理由なのかもしれない。

とてもやかましい父だったが一言の文句もいわずに済んだのが、今思うととても不思議だ。



9月8日(白露)、最近になく早く咲き出した彼岸花



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問

企画、営業、DTP 制作募集

ここには“汗”がある。

■お問い合わせは■

TEL(0246)29-2424 E-mail:read@iwaki-j.net

〒971-8141 福島県いわき市鹿島町走熊字小神山29(ヤスミツ第1ビル2-A)

(株)いわきジャーナル **旬のいど**

虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設



医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531